

## 第4次三鷹市基本計画の策定にあたって

～ 希望あふれる三鷹の「今」と「未来」を創る  
「持続可能な都市」をめざして～

三鷹市長 清原慶子



このたび三鷹市は、平成34(2022)年度を目標年次とする「第4次三鷹市基本計画」を確定しました。第4次となる三鷹市の長期総合計画である「基本計画」策定に向けた取り組みを進めている過程で、平成23年(2011年)3月11日に東日本大震災が発生しました。私は、この大震災への対応の経験を通じて、防災力を持った都市基盤を充実し、災害時の対応力を持つことによって、いざという時に市民の命と暮らしを守ることが基礎自治体の最も重要な役割であることを再認識しました。そして、市民の皆様が相互に地域で支え合う仕組みづくりを日常的に重ねることが、安全で安心して暮らせるまちづくりの基礎であることを、市民の皆様とともに痛感しました。

人々が、地域で安全に安心して暮らせるためには、都市基盤を充実するとともに、日常的には出会いと、ふれあいと、支え合いが相互になされるようなまちづくりが進められていなければなりません。このことは、これまで三鷹市が政策課題として掲げ、実践してきた「都市再生」と「コミュニティ創生」のまちづくりと軌を一にしています。そこで、「第4次三鷹市基本計画」においてもこの二つの課題を最重点プロジェクトに位置付けました。そして、東日本大震災における諸課題を踏まえた地域防災計画の改定、事業継続計画の推進などに取り組む「危機管理」を緊急プロジェクトに位置づけ、この三つのプロジェクトを柱として安全で安心して暮らせるまちづくり、高環境・高福祉のまちづくりを進めていくこととしました。

「第4次三鷹市基本計画」は、基本計画と個別計画との整合及び連動を図ることを規定した「三鷹市自治基本条例(平成18年4月施行)」制定後、初めて策定される基本計画となります。そこで、まずは民意を市政に一層反映する仕組みの構築を図るとともに、基本計画と個別計画の機能的な役割分担を図るため、第4次基本計画の策定及び改定時期を市長の任期と連動させました。そして、基本計画の策定と23の個別計画の策定・改定作業を同時並行して進めました。また、計画策定にあたっては、多様化し変化する市民の皆様のニーズを反映するため、平成22年度にはコミュニティ住区ごとに「まち歩き・ワークショップ」を実施し、平成23年度には無作為抽出の約100人の市民の皆様に、2日間にわたって三鷹のまちづくりについて話し合っただく「みたかまちづくりディスカッション」を実施しました。従来同様に、市民会議・審議会での検討、コミュニティ住区ごとの「まちづくり懇談会」の開催、骨格案に対するアンケート調査やパブリックコメントの実施など、多元的で多層的な市民参加の機会を重ねてきました。そして、可能な限り市民の皆様の意見を計画に反映することに努めました。

三鷹市の人口は、今後緩やかな増加傾向が続き、その後は、ほぼ横ばいあるいは減少すると予想されています。また、市の財政状況は、世界的な経済危機の影響など深刻な社会経済状況により市税収入の顕著な回復が見込めない中、社会保障関係費の伸びが続いており、依然として厳しい状況です。少子高齢化と人口減少の時代において、成熟した品格のあるまちづくりとともに、地域の持続的な発展、成長が求められています。私は、子ども・子育て施策の拡充や優良な住宅環境の形成・誘導、市内商工業の継続支援、都市型産業の誘致、都市観光や芸術文化活動の充実等を図り、人や企業に選ばれる魅力ある三鷹づくりを推進してきました。今後、本計画の実現をめざすことを通して、市民の皆様が将来への希望にあふれ、今を生きることに誇りを持ち、これからも三鷹に住み続けたいと実感できるようなまちづくりを推進していきたいと考えています。

第4次基本計画実行元年となる平成24(2012)年度の施政方針では、「震災の危機を乗り越えて、安全で安心して暮らせるまちを創り、希望あふれる三鷹の『今』と『未来』を創造する年度」と位置づけました。平成24年(2012年)を、「持続可能な都市・三鷹」の創造に向けた起点として、今後とも、市民の皆様、関係各位の「民学産公の協働のまちづくり」へのご参画をお願い致します。

平成24年3月